

平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成 30年 3月 30日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	教授	氏名	坂野 純子
研究課題	岡山の自然資源を活用した多世代交流拠点の創生：ネイチャー・ベースド・リハビリテーション（NBR）の意義と機能に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	坂野純子	保健福祉学科・教授	障害者福祉	総括	
研究組織	分担者	吉永早苗 原野かおり	保健福祉学科・教授 保健福祉学科・准教授	音楽教育 介護福祉	ニーズ評価 ニーズ評価	
		沖本克子 高橋幸子 笹原信一郎 石井麻有子	看護学科・教授 看護学科・教授 筑波大学・准教授	小児看護 国際看護 産業保健	ニーズ評価 プログラム開発 プログラム開発 プログラム開発	
研究実績の概要		パトリック・グラン	たかせクリニック・研究員 スウェーデン農業科学大学・ランドスケープアーキテクチャー・教授	園芸学 環境心理学		
		<p>本研究では、大学が地域コミュニティを活性化する拠点になるための戦略を提案することをねらいとして、環境心理学の分野で著名なパトリック・グラン教授をスウェーデンから招聘し、岡山県の豊かな自然・景観を活用した「人と人がつながる場」としてネイチャー・ベースド・リハビリテーションガーデン（以下、NBRG）の意義とスタイルに関するシンポジウムを開催し、NBRGモデル案の検討、およびキャンパス内NBRGを検討することを狙いとしたNBRG研究ネットワークを立ち上げた。</p> <p>1. フィールド調査 9月18日（月）県内の精神障害者を対象とする多機能型施設で視察および聞き取り調査を実施した。関係者と協議の結果、今後、当該施設内に NBRG モデルの創設し、利用する精神障害者の健康影響について継続的に共同研究を行うことで合意形成した。</p> <p>2. 国際交流セミナー（公開）の開催 9月19日（火）本学の共通（東）8904 講義室において NBR 先駆者の Patrik Grahn 教授と笹原信一郎准教授（筑波大学）、石井麻有子氏（園芸学）らの国内研究者を招聘して、本学内で国際交流セミナー（公開講座）を開催し、学生と教員、保健・医療・行政関係者に NBR に関する情報発信を行った。院生 5 名、学部生 7 名、教員 8 名、福祉関係者 12 名（図1）</p>				
						
					図1：国際交流セミナーの様子	

<p>研究実績の概要</p>	<p>3. NBRG 実践モデルの検討及び提案 (図 2)</p> <p>9 月 20 日 (水) 同志社大学今出川キャンパスにおいて、国内 NBRG 研究者と研究会を開催し、今後、本学内キャンパスと県内の精神障害者を対象とする多機能型施設のそれぞれにおける NBR の機能と期待される効果について検討を行った。その結果、医療・福祉的介入を前提とする多機能型施設の場合は、症状が重い患者と専門職が治療的に介入する「閉鎖的 NBR」であり、専門職は作業療法士、看護や介護等のケアワーカーとなる。一方、本学キャンパス内を想定する NBRG は、地域で暮らす親子、元気な高齢者、自立している障害者等、多様な背景をもつ「市民」が対象となり、関係する専門職はソーシャルワーカーや行政職等となることが明らかとなった。</p>  <p>図 2 : 今回のニーズ調査で明らかとなった 2 つの NBRG モデル</p> <p>4. 「NBRG 研究会」の立ち上げ</p> <p>1 月 17 日 16 時から 17 時 30 分まで本部棟小会議室において第一回の研究会を行い、保健福祉学、看護学、栄養学、デザイン、情報工学の各領域の研究者 (10 名) による「NBRG 研究会」を立ち上げた。7 名が参加した。申請者から研究会設立の趣旨、SLU (スウェーデン農業科学大学) との共同研究の経緯、今後のプロジェクト計画案、などを説明した。</p> <p>NBRG 研究会の議論の結果、定期的に研究会を開催して、メーリングリストで情報を共有する、本事業の環境教育の重要性、マグノリア、ベリー系植物等北欧の植物を植えること、授業のなかで学生と NBRG で使う小屋等を検討、環境とのコミュニケーション装置、子どもの育ちにおける支援的環境原則の重要性、などが共有された。</p> <p>さらに、県内中山間地域に誘致した産業労働者のメンタルヘルス対策にも活用の可能性がある。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>なし</p>